

## 会議結果報告書

会議の名称	令和元年度札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会
日時・場所	令和元年7月29日(月) 13:30~14:40 札幌市児童福祉総合センター 2階大会議室
出席委員 6名/8名中	松本 伊智朗(部会長)、岩松 弘毅、高橋 司、秦 直樹、 箭原 恭子、山下 貴司(敬称略)
傍聴者数	2名

議事	概要
1 第3次札幌市児童相談体制強化プランの検討について	<p><b>(審議概要)</b></p> <p>事務局より、以下の資料について説明。</p> <p>資料1 第3次札幌市児童相談体制強化プラン策定スケジュール(たたき台)</p> <p>資料2 札幌市関係計画に掲げる児童相談体制に関する主な取組</p> <p>資料3 相談対応件数等の推移</p> <p>資料4 第2次札幌市児童相談体制強化プラン 進捗状況一覧</p> <p>資料5 第3次札幌市児童相談体制強化プランの構成について(たたき台)</p> <p><b>(各委員からの御意見・質疑等)</b></p> <p><b>○資料1について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉部会に設置した検証ワーキンググループについて、検証報告の取りまとめ時期は現時点では未定であるが、第3次強化プランには検証報告の提言を反映させるべきであると考えている。第3次強化プランの策定期を後ろにずらすことができるかどうかについて、現時点でどのように考えているか。</li> <li>→第3次強化プランの取りまとめが年度を越えるとしても、検証結果を踏まえて策定したいと考えている。令和元年の児童福祉法改正への対応等で必要な事項については先に議論をお願いしたいが、最終的にプランとして取りまとめるのは、年度を越えても構わない。</li> <li>・第3次強化プランについて審議するうえで、これまでの強化プランの各取組について、担当している職員の率直な評価をまとめて欲しい。</li> </ul> <p><b>○資料3について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的虐待の認定件数が平成29年度から平成30年度にかけて減っ</li> </ul>

ていることについては、どのように分析しているか。

→警察からの通告が、平成 29 年度の 888 件から平成 30 年度は 831 件に減少したため、虐待認定件数も少なくなったものと分析している。

#### ○資料 4 について

- ・里親の方々とのつながりが一番多いのは里親会であると思うので、里親支援を考えるうえでは、里親会とつながりのある形で構築して欲しい。
- ・実施している事業自体は良いが、中途半端に実施していて評価につながらない部分があるので、しっかりと予算と人をつけて充実させていくことで、子ども達が安心して支援を受けながら自立に向かうことや、安心して子育てができる地域ができてくるのではと思う。
- ・現在は一時保護所が恒常的に満室状態となっているため、第二児童相談所を設置する際には、一時保護所を設置して保護が必要な子どもを速やかに保護できるようにしておかなければ、一時保護所に入れないうちに問題が起きることがある。一時保護は児童相談所の重要な任務の一つであるので、一時保護所は充実していて欲しい。
- ・児童家庭支援センターの整備においては、市内の全児童養護施設に設置すること自体を目的とするのではなく、センターが何をすべき機関なのか、どういう仕事をするためにどうして必要なのかというあたりも踏まえて検討し、議論して欲しい。

(議事概要について出席委員内容確認済み)